

令和6年度第2回森林の未来を考える懇談会資料

もり
森林づくりタウンミーティングの
開催結果について

令和6年10月8日

福島県農林水産部森林計画課

もり 森林づくりタウンミーティングの開催結果について

1 開催目的

福島県森林環境税の現行制度（令和3～7年度）が満了することから、福島県森林環境税のこれまでの取組や成果を広く周知し、令和8年度以降の在り方についての意見や要望等を直接いただく、タウンミーティングを開催した。

2 開催結果概要

- (1) 令和6年7月18日から8月9日まで、下記のとおり各地域において開催した。
- (2) 参加者は205名。
- (3) 参加者からは53件の意見、要望が出された。
- (4) 福島県森林環境税の継続を求める意見、要望が多数あり、廃止を求めるものはなかった。
- (5) 森林整備や森林環境教育の更なる実施や、内容充実を求める意見要望が多数あった。

3 開催内容

- (1) 実施地域 県内8地域
- (2) 開催時間 1時間30分程度（説明1時間、意見交換30分程度）
- (3) 参加者数 合計205名

開催地域	開催概要 [森林の未来を考える懇談会委員]	参加者数
県北	令和6年8月7日(水)18:00～19:30 [白井貴光氏・丸睦美氏] 福島県教育会館 第1会議室 (福島市)	29名
県中	令和6年8月1日(木)18:00～19:30 [太田左恵子氏・鈴木俊行氏] ビックパレットふくしま 小会議室2・3 (郡山市)	26名
県南	令和6年7月24日(水)18:00～19:30 [菅野泰英氏] 白河市立図書館 中会議室1・2 (白河市)	19名
会津	令和6年7月25日(木)18:00～19:30 [原田英美氏] 河東公民館 2階大ホール (会津若松市)	28名
南会津	令和6年8月9日(金)18:00～19:30 [根本実和氏] 御蔵入交流館 多目的ホール (南会津町)	25名
相馬	令和6年7月23日(火)18:00～19:30 [白井貴光氏] 原町生涯学習センター 集会室 (南相馬市)	20名
双葉	令和6年7月18日(木)18:00～19:30 [小松雅喜氏] linkる大熊 多目的ホール (大熊町)	27名

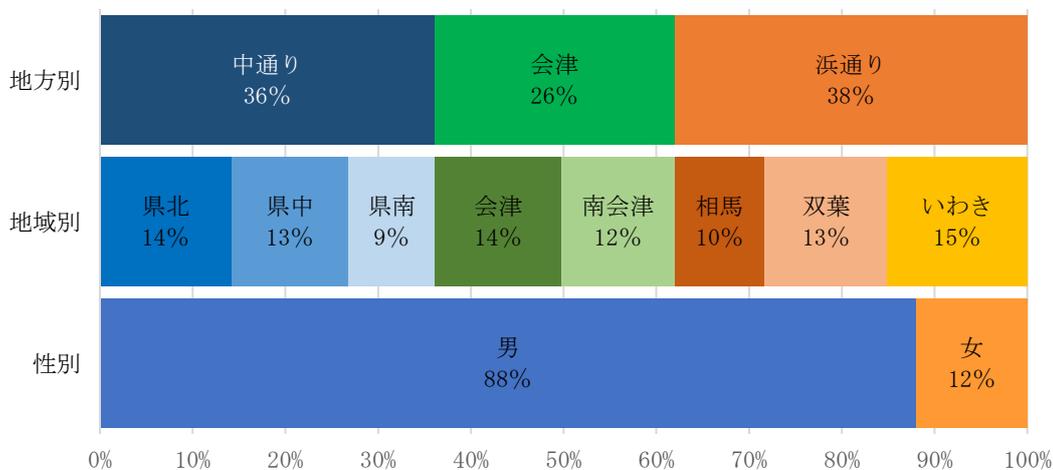
いわき	令和6年8月5日(月) 18:00~19:30 [緑川平隆氏] いわき合同庁舎 本庁4階大会議室 (いわき市)	31名
-----	--	-----



4 参加者の構成

- ・地方別割合は3地方とも大きな差はなく、地域別割合もすべての地域において大きな差はなかった。
- ・性別では男性が大多数を占めた。

図-1 参加者の構成

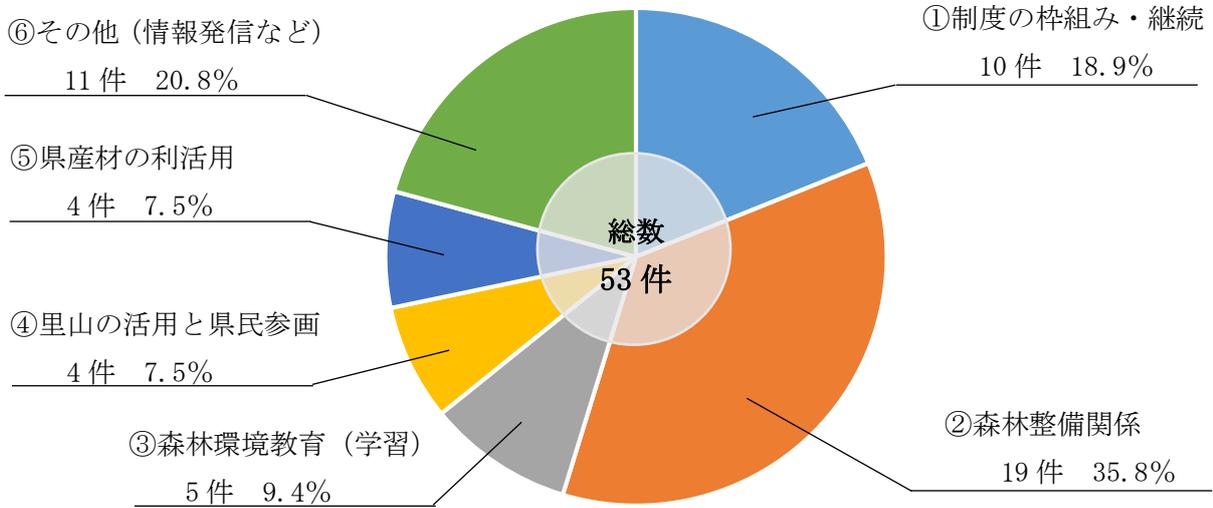


5 タウンミーティングの結果

(1) タウンミーティングにおける意見等 (内容別要約)

- 福島県森林環境税について、継続の要望が複数あり、継続反対の意見はなかった。
- 間伐等の森林整備や皆伐再造林、花粉症発生源対策への支援の要望があった。
- 福島県森林環境税の制度や事業について周知すべきとの意見があった。
- 子どもから大人までの幅広い世代に対する森林環境教育等の実施やその指導者(もりの案内人)の育成・支援を求める意見があった。
- 森林整備を進めるための路網の整備や県産材の利用促進に対する要望があった。

図-2 意見・要望等の内容別割合



(2) 主な意見

①制度の枠組み・継続

- ・国の政策ではスポットが当たらない課題等に県税の活用を検討してほしい。
- ・福島県森林環境税は森林の重要性を周知する意味で非常に有効であるため、ぜひ続けていただきたい。
- ・福島県森林環境税事業の制度をもっと分かりやすく周知すれば、森林所有者が活用しやすくなるのではないか。

②森林整備関係

- ・木材を循環利用するためには皆伐再造林が重要。出来るだけ予算をつけてほしい。
- ・花粉症対策に向けた苗木の生産や再造林に取り組んでいただきたい。
- ・針葉樹だけでなく広葉樹の整備も進めてほしい。
- ・林道がなければ間伐等の森林整備を行うことが出来ないため、林道や作業道の整備を進めてほしい。
- ・皆伐後放置されている山が多いので、皆伐跡地に再造林が出来る仕組みを作ってほしい。

③森林環境教育（学習）

- ・幼少期から森林に関わる機会を提供するのは重要。
- ・森林環境教育を行うフィールドの整備に税を活用してほしい。
- ・林業の担い手不足、林業従事者の高齢化が大きな問題となっているため、若い世代に対する森林環境教育等の施策はとても重要。

④里山の活用と県民参画

- ・子どもだけでなく大人に対する意識醸成活動も必要である。森林に関わってみようと思わせるような施策をお願いしたい。
- ・引き続き、もりの案内人への支援をお願いする。
- ・里山林整備事業の緩衝帯整備を単年度ではなく次年度以降も行えるようにしてほしい。

⑤県産材の利活用

- ・どこで県産材を購入出来るのかHP等で情報公開してほしい。
- ・県産材を使った日用大工の講習会等を行えばDIYに興味のある人は惹かれるのではないか。
- ・育てた木を使い、お金として還元できないと森林所有者などの理解が得られず森林整備が進まないの、県産材の利用拡大に力を入れていただきたい。

⑥その他（情報発信など）

- ・非常に良い制度なので、福島県森林環境税の必要性を強く周知してほしい。
- ・素材生産の担い手をどうやって増やすか考えてほしい。
- ・森林の公益的な機能についてさらにPRをする必要があるのではないか。